

2018年4月27日

2018年度の鉄道事業設備投資計画
設備投資計画は総額 360億円

~より安全で便利な、そして快適で使いやすい鉄道を目指して~

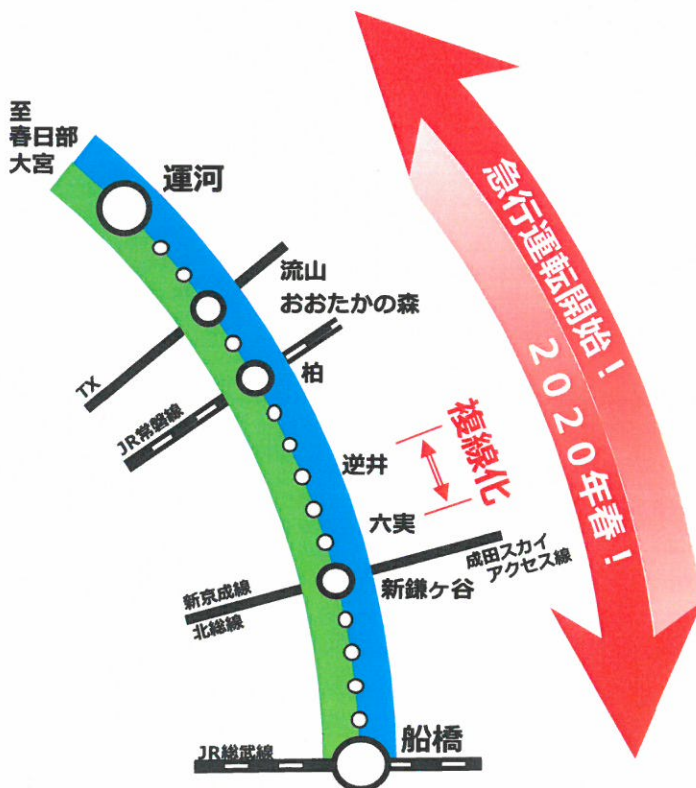
東武鉄道株式会社

東武鉄道（本社：東京都墨田区、社長：根津嘉澄）では、より安全で便利な、そして快適で使いやすい鉄道を目指して、2018年度に鉄道事業において総額360億円の設備投資を行います。

1. より安全で便利な鉄道を目指して
（六実～逆井間複線化および船橋～運河間急行運転化）

東武アーバンパークライン 六実～逆井間約3.9kmの複線化については、2019年度末の完成を目指し、2018年度は軌道移設工事等を推進します。

複線化工事の完成にあわせて、船橋～運河間において急行列車の運転を予定しています。これにより、所要時間の短縮等、輸送サービスの向上を図り、お客さまにとってより便利な鉄道を目指します。

<東武アーバンパークライン新規急行運転区間概要>


△六実～逆井間複線化（工事中）

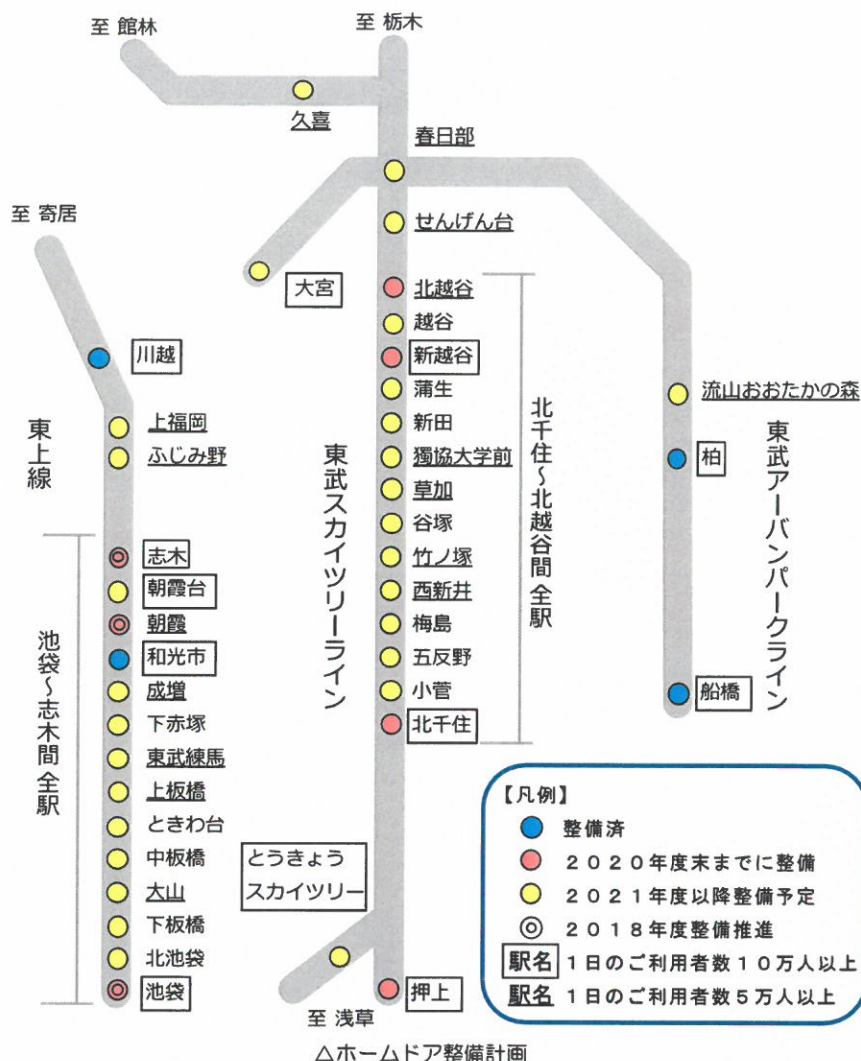
(安全で安心な駅ホームの整備)

ホームドアについては、国・関係自治体のご支援のもと、2020年度末までに、1日のご利用者数が10万人以上の駅(押上・北千住(3階)・新越谷・池袋・志木)および東京オリンピック・パラリンピック競技会場最寄駅(北越谷・朝霞)、計7駅に整備します。

2018年度は、池袋駅(1～3番線)および朝霞駅(3、4番線)の整備が完了する予定であるほか、志木駅の整備についても引き続き推進します。また、北千住駅(3階)・新越谷駅・北越谷駅の整備に着手します。

2021年度以降は、特にご利用者数が多い区間の駅およびご利用者数が5万人以上の駅、計29駅の整備を推進します。

そのほか、視覚障がいをお持ちのお客さまが駅をご利用しやすいよう、音響音声案内装置を41駅に設置しており、2018年度は、3駅(越谷・ときわ台・鶴ヶ島)に整備します。



(鉄道の立体化の推進)

鉄道の立体化については、踏切事故を抜本的に解決するとともに、都市の再生、活性化に寄与することから、現在、沿線3か所において推進しています。

○ 竹ノ塚駅付近高架化

東武スカイツリーライン 竹ノ塚駅付近(西新井～谷塚間)では、足立区が施行する都市計画事業として連続立体交差化工事を施行中です。

2021年度の踏切除却を目指し、2018年度は、仮上り緩行線の切替・撤去工事を推進します。

この事業が完了すると、竹ノ塚駅が高架駅となり、2か所の踏切が廃止されます。



△竹ノ塚駅付近の高架橋(工事中)

○ 清水公園～梅郷間高架化

東武アーバンパークライン 清水公園～梅郷間では、千葉県が施行する都市計画事業として連続立体交差化工事を施行中です。2023年度の完成を目指し、2018年度は、高架橋の建造工事を引き続き推進します。

この事業が完了すると、愛宕駅と野田市駅の2駅が高架駅となり、11か所の踏切が廃止されます。



△清水公園～梅郷間の高架橋（工事中）

○ とうきょうスカイツリー駅付近高架化

東武スカイツリーライン とうきょうスカイツリー～曳舟間では、2017年度に、墨田区が施行する都市計画事業として連続立体交差化工事に着手しました。2024年度の完成を目指し、2018年度は、留置線移設工事を引き続き推進します。

この事業が完了すると、1か所の踏切が廃止されます。



△とうきょうスカイツリー駅付近の高架橋（イメージ）

（高架橋および橋梁の耐震補強）

高架橋や橋梁の耐震性を高めるべく、耐震補強工事を引き続き推進します。2018年度は、東武スカイツリーライン 谷塚駅～新田駅、東武アーバンパークライン 新柏駅、東上線 和光市駅等の駅部高架橋、および東武アーバンパークライン 江戸川橋梁ほか1橋梁の耐震補強工事を推進します。



△高架橋耐震補強後（草加駅付近）



△江戸川橋梁の耐震補強（南桜井～川間）（工事中）

（自然災害への備えの強化）

大規模地震や集中豪雨等の自然災害に強い鉄道を目指すべく、防災対策工事を引き続き推進します。2018年度は、東上線 成増～和光市間および東武スカイツリーライン 北千住駅構内の法面補強工事等を推進します。

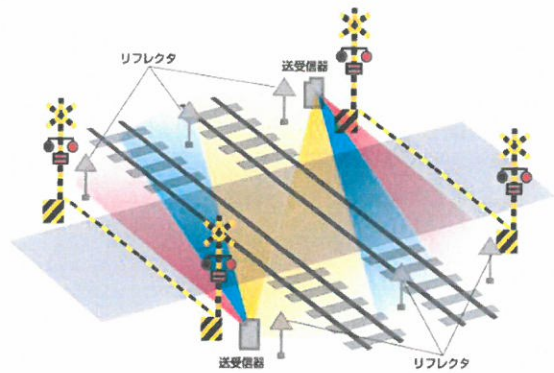


△法面の補強前と補強後（成増～和光市間）

(踏切の安全性向上)

踏切のさらなる安全性の向上を図るため、検知範囲の広い新型（レーダー式）踏切支障報知装置への更新を進めるとともに、踏切が支障した場合に「非常ボタン」を操作すると、ATS（自動列車停止装置）と連動し、列車を自動的に停止させる工事を引き続き推進します。

※送受信器は、障害物を検知するレーダーを送信・受信します。
※リフレクタは、レーダーを送受信器へ反射します。



△新型（レーダー式）踏切支障報知装置

(列車無線の更新)

運行管理所と各列車の通信手段である列車無線の更新工事を引き続き推進します。この更新により、運行管理所と複数の列車の乗務員との同時通話や、乗務員室のモニタ画面への文字情報伝達が可能になり、迅速な情報収集が図られるほか、より正確な情報をお客さまにご提供することが可能になります。

2. より快適で使いやすい鉄道を目指して

(1) 車両設備

(東京メトロ日比谷線直通70000系車両の導入および20000系車両の改良)

日比谷線直通車両については、2019年度までに、計22編成154両の70000系車両の導入を計画しており、これにより現行の20000系車両すべてが70000系に置き替わります。

2018年度は、6編成42両の70000系車両を導入します。また、20000系車両については、内外装をリニューアルのうえ、新たな車両として、2018年夏を目途に日光線 南栗橋以北および宇都宮線でデビューします。



△70000系車両



△20000系車両（リニューアル後イメージ）

(2) 駅設備

(駅舎の橋上化等)

東武アーバンパークライン 高柳駅、日光線 幸手駅、越生線 越生駅について、関係自治体のご支援のもと、駅舎の橋上化等を推進しており、2018年度は、高柳駅および幸手駅の橋上駅舎の供用を開始します。また、越生駅については、駅両側の駅前広場をつなぐ自由通路が完成します。



△高柳駅（工事中）



△幸手駅（イメージ）



△越生駅（イメージ）

（駅舎のリニューアル）

お客さまに駅をより快適にご利用いただけるよう、駅舎のリニューアル工事を引き続き推進します。2018年度は、日光線 東武日光駅、佐野線 佐野市駅、東上線 下板橋駅・中板橋駅・ときわ台駅・下赤塚駅・若葉駅の駅舎をリニューアルします。また、東武スカイツリーライン 北千住駅についても、商業施設と一体となったリニューアル工事を引き続き推進します。



△ときわ台駅リニューアル（イメージ）



△北千住駅リニューアル（イメージ）

（ホーム待合室の新設）

ホームでお待ちいただいているお客さまへのサービス向上を図るため、2018年度は、東武スカイツリーライン 北越谷駅、東上線 朝霞駅の上りおよび下りホームに冷暖房付き待合室を新設します。



△冷暖房付きホーム待合室（小菅駅）

（駅トイレのリニューアル）

お客さまに快適にご利用いただけるよう、駅のお客さま用トイレを計画的に更新しています。2018年度は、東武スカイツリーライン 浅草駅・とうきょうスカイツリー駅、日光線 東武日光駅、鬼怒川線 鬼怒川温泉駅、東武アーバンパークライン 逆井駅、東上線 みずほ台駅・川越駅・若葉駅・北坂戸駅のトイレをリニューアルします。



△トイレのリニューアル後（春日部駅）

(駅施設のバリアフリー化)

すべてのお客さまにご利用いただきやすい駅施設を目指し、移動等円滑化の促進に関する基本方針の整備目標に沿って、バリアフリー化工事を推進しています。2018年度は、国、関係自治体のご支援のもと、東上線 下板橋駅・ときわ台駅[※]にエレベーターを整備します。

[※]ときわ台駅については、すでに南口とホームを結ぶバリアフリールートを整備しておりますが、さらに北口とホームを結ぶルートを今回整備します。

(エレベーター・エスカレーターの更新)

駅のバリアフリー化として、これまでに全線でエレベーター283基、エスカレーター255基(2017年度末時点)を設置していますが、引き続き安全かつ快適にご利用いただけるよう、更新工事を計画的に推進します。また、更新にあわせ、エレベーター内に防犯カメラを設置し、安全対策に努めます。

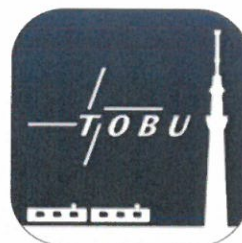
(駅照明のLED化)

LED照明は、使用電力量が少なく、省エネルギー効果があることや、光源寿命が長い等、環境負荷低減に寄与することから、全駅の照明のLED化を推進しています。2018年度は、東武スカイツリーライン 東向島駅・草加駅、東武アーバンパークライン 八木崎駅、東上線 柳瀬川駅の構内照明をLED化します。

(3) お客さまサービスとインバウンド対応

(運行情報アプリのアップデート)

視覚的にわかりやすい運行情報を迅速かつ詳細にご提供するため、2017年度よりスマートフォンアプリ「東武線アプリ」を配信しております。2018年度は、東武スカイツリーラインを中心に、より広い区間の列車走行位置がわかるようアップデートを行い、さらに多くのお客さまの利便性向上を図ります。



△「東武線アプリ」ロゴ



△発車時刻表示画面

(特急券購入の利便性向上)

特急券は、これまで自動券売機やチケットレスサービス等にてご購入いただいておりますが、2018年度は、会員登録不要で当社ホームページ上からクレジットカード決済による特急券購入が可能となるシステムを新たに構築し、あわせて多言語化(日本語・英語)することにより、インバウンドのお客さまにも特急券をお求めいただきやすくします。

(車内ビジョンの拡充)

車内ビジョンは、運行情報等を、視覚的にわかりやすいアニメーションや多言語(日本語・英語・中国語・韓国語)によりご案内できることから、インバウンドのお客さまにもご利用いただきやすいよう、これまで日比谷線直通7000系車両および東武アーバンパークライン6000系車両に導入しています。2018年度より、東京メトロ有楽町線・副都心線・半蔵門線直通の5000系車両を対象に導入を推進し、ご案内の向上を図ります。



△車内ビジョン(イメージ)

(発車案内表示器・自動放送装置の多言語化)

インバウンドのお客さまがご利用いただきやすいよう、2018年度は、東武スカイツリーライン 浅草駅・とうきょうスカイツリー駅、日光線 東武日光駅、鬼怒川線 鬼怒川温泉駅の発車案内表示器を多言語化（日本語・英語・中国語・韓国語）します。また、東武スカイツリーライン 浅草駅、鬼怒川線 鬼怒川温泉駅において、自動放送装置を多言語化（日本語・英語）します。

(TOBU FREE Wi-Fiの拡大)

「TOBU FREE Wi-Fi」については、インバウンドのお客さまにもご利用いただきやすいよう、これまで120駅および特急車両・TJライナー用車両に整備しています。2018年度より、有楽町線・副都心線直通車両の整備を推進します。



△「TOBU FREE Wi-Fi」ロゴ

3. より魅力ある鉄道を目指して

(大谷向～鬼怒川温泉間昭和レトロ化工事)

鬼怒川線を、ファミリーでお楽しみいただける「昭和レトロ感」のあるテーマパークにすることを旨とし、2017年度は、SL大樹の運転開始にあわせ、下今市駅にSL転車台広場を開設し、駅舎、駅名標・番線表示板といったご案内表示やお客さま用ベンチ等に昭和レトロ調デザインを採用しました。2018年度も引き続き、SLの運転区間である鬼怒川線各駅（大谷向～鬼怒川温泉）において「昭和レトロ感」を採り入れ、SLの車窓から「時空を超える旅」を感じとっていただける演出により、さらに魅力ある鉄道を目指します。



△昭和レトロ調デザイン（下今市駅）

以 上